

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

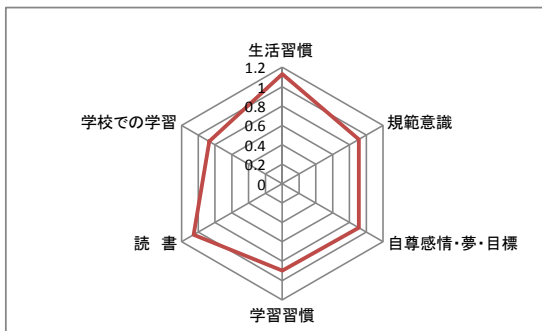
国語A	全体的な傾向や特徴など	・「読むこと」領域の問題は、全国平均正答率を上回っている。 ・「話す・聞く」、「言語事項」の領域は、全国を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「読むこと」領域の選択式の問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・漢字の読み書き、ローマ字の読み書きの能力が定着しておらず、無解答率も高い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	「話す・聞く」領域の問題、「読むこと」領域の問題は、全国平均正答率を大きく下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	グラフを基に分かったことや自分の考えを書く問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	質問の意図を捉えたり、話の展開に沿った質問を考えたりする問題の正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っており、特に「量と測定」領域の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数の加法の計算、直方体における面と面の位置関係は、十分に理解している。	
	努力が必要な問題	除法における計算の確かめの方法、単位量あたりの大きさの求め方は定着度が低い。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・どの領域においても全国平均正答率を下回っている。 ・記述式の問題については、無解答率が全国を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	どの領域においても、短答式の問題では全国平均正答率を上回っているものが多い。	
	努力が必要な問題	式の意味や考え方の理由を説明する問題は、正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きな児童は、昨年度に引き続き全国平均正答率を上回っており、朝の読書活動や音読の宿題(毎日実施)の成果が表れているといえる。 ・自分のよさを認めるセルフイメージが低い。友達のやさしさや友達への感謝の気持ちを言葉で表す「ハッピータワー」の取り組みを工夫する必要がある。 ・計画的に学習をしたり、自分で課題を見つけて学習したりする児童が少ない。また、授業中に友達と話し合ったり、自分の考えを説明したりすることを苦手と感じている児童が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動や音読の宿題は、今後も全校で統一して実施する。 ・1時間の授業の中に、自分の考えを書く活動、友達と話し合う活動を必ず取り入れるように全学級の授業を改善していく。 ・音読暗唱ブック「ひまわり」の音読について、指導方法や実施の仕方を工夫する。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習において様々な人と交流する機会を設定したり、小中連携の取り組みを推進したりすることで、夢や希望をもって生活しようとする態度を育てるとともに、自己肯定感を高める。 ・学級懇談会や学校・学年・学級便りを通して、保護者に向けて家庭学習の大切さを発信していく。学級では家庭学習名人コーナーを作るなどして、よりよい家庭学習の仕方について具体的に指導する。
--